

柏市訪問記

楊 帥 (男 23才 大学5年 = 医学部 ホストは根本 勤さん)

異国の情趣に対する珍しさと憧れを胸いっぱい抱いて、2008年1月20日、私は一衣帯水の隣国である日本へ六日間の見学、訪問の旅に出かけました。

飛行機を降りるとすぐ、私達は柏市民の心温かいもてなしを受けました。柏市国際交流協会と柏市役所の方々は私たち代表団に短い六日間で出来るだけ多く日本を理解させるために周密かつ綿密な日程を立てて下さいました。

皆様の案内で、私たちは清潔で現代の息吹に満ちた市役所の建物、花園のような麗澤学園、おとぎの王国のような東京デズニーランド、伝統文化を象徴している浅草寺など見学したり、すばらしい市立柏高校の吹奏楽演奏を聴いたりしました。東京大学の先進的な教育環境、厳格な研究態度に感銘を受けました。そのすべてが私たちに深い印象を残しました。たとえば、「一期一会」で客をもてなす日本の茶道、先進科学技術の発展を体現している日立メデイコは伝統と現代が完璧に融合していて、深く感銘せずにはられませんでした。それから、人に優しい配慮があふれている柏市立病院、老人病院や至る所に環境保護理念を体現した、新しく建てられた「ごみ処理場」は私たちに更に、儀礼、仁愛、人と自然が調和して発展した文明社会を見せてくれました。



六日間、私は普通の日本の家庭に泊まりました。親切で客好きな根本勤さん一家とその友人、市川寿子さんは至れり尽くせりのお世話をして下さいました。私が日本食に不慣れなのを心配して、根本さん達は毎食、私のために中華料理を準備して下さいました。私が一番不思議に思ったのは、日本の友人が思いがけなくも中国の伝統のとおり、見送りの前日に、わざわざ私のために中国の餃子を作って下さったことです。このすべてによって両国民の深い友情が身に沁みてよく分かっただけでなく、また両国文化の融合と浸透を感じました。

六日間は短かったけれども、この素晴らしい思い出と日本人の真摯な気持ちは永遠に私の心に残るでしょう。

2008年のオリンピックの聖火がまもなく中国にやってきました。是非中国にお出で下さい。。この盛大な祭典を共に感動すると同時に、皆さん、承德へ旅行にお出かけ下さい。承德には秀麗優美な避暑山荘、遼遠無限なる木蘭囲場、金碧輝煌する外八廟、万里の長城の金山

嶺 などがあり、承德市民は心をこめて皆様をお迎えし、友情はきっと素晴らしい思い出になる筈です。

両市民の友情は毎回交流したり、訪問するたびに、いっそう深まっています。両国市民の友好、友情がとこしえに変わらぬことを願っています



←

麗澤中学・高校にて
竹政幸雄校長と

日の出棧橋から
隅田川へのクルーズ
を楽しむ →

